

一般社団法人日本歯科医学会連合
国際活動委員会フォーラム2026
抄録集

国際学術交流・連携の現状と課題

オンデマンド配信

令和8(2026)年3月25日(水) - 令和8(2026)年4月30日(木)

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F

一般社団法人 日本歯科医学会連合

Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp



国際学術交流・連携の現状と課題

オンデマンド配信

開催日時：令和8（2026）年3月25日（水） — 4月30日（木）

【プログラム】

開 会 開会の辞と趣旨説明 細川隆司（日本歯科医学会連合 国際活動委員会委員長）

演題 国際学術交流・連携の現状と課題-グローバルな学術活動をどう展開すべきか-

講師 細川隆司（国際活動委員会委員長，九州歯科大学名誉教授）

演題 FDI(国際歯科連盟)の現状と課題:国際歯科界の動向と日本への影響

講師 小川祐司（日本歯科医師会国際渉外委員会委員長，FDI理事，新潟大学大学院医歯学総合研究科
予防歯科学分野教授）

演題 IADR/JADRを通じた歯科医学の国際活動の展望

講師 林 美加子（JADR会長，大阪大学理事・副学長）

総合討論

講師：細川隆司，小川祐司，林 美加子

コーディネーター 保坂啓一（国際活動委員会 副委員長）

○江草 宏（国際活動委員会 委員）

○峯 篤史（国際活動委員会 委員）

○吉川一志（国際活動委員会 委員）

【○：総合討論パネリスト】

プログラム統括 向坊太郎（国際活動委員会 幹事）

細川隆司（ほそかわりゅうじ）

日本歯科医学会連合 国際活動委員会 委員長

九州歯科大学名誉教授



抄録

コロナ禍を経て対面による交流の意義が改めて問われる中、国際誌への論文投稿だけを評価し直接的な国際交流が乏しくなれば、日本の歯学研究や臨床の目指す方向性が世界で通用し評価されるかという「外的妥当性」の検証や、国際的な枠組みによる共同研究や臨床ガイドライン策定などへの関与が希薄になる。また、大学教育においては、いわゆる「グローバル・コンピテンシー」を備えた人材育成が疎かになり、日本の歯科界の国際的地位の低下が危惧される。

歯科における国際的な主要団体には、国際保健や政策提言を担うFDIと、学術研究や若手研究者育成を主導するIADRがあり、これらは歯科臨床医、大学所属研究者における国際交流の両輪を成している。諸外国の組織形態を分析すると、日本はドイツと類似性が高く、職能団体（歯科医師会とその内部組織である日本歯科医学会）とは別に、独立した法人格を持ち学術団体を束ねる歯科医学会連合がある。この特性を活かし、日本歯科医師会（日本歯科医学会）がFDIと密に連携する一方で、本連合はIADRおよびJADRとの戦略的連携を深めていくことが一つの提案として考えられる。また、国際共同研究の推進、若手研究者の海外派遣や国際学会参加支援、日本の優れた知的資産の国際社会への還元を通じ、日本の歯科界を支える「戦略的投資」として国際活動を活性化させていくことが日本歯科医学会連合の責務ではないかと考えている。

略歴

学歴

- 1986年 九州歯科大学歯学部卒業
- 1990年 九州歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了

職歴

- 1990年 日本学術振興会特別研究員DC
- 1991年 ハーバード大学歯学部 Research Associate
- 1999年 広島大学歯学部講師
- 2003年 九州歯科大学歯学部教授
- 2012年 九州歯科大学歯学部長
- 2016年 九州歯科大学附属病院副病院長
- 2020年 九州歯科大学副学長
- 2021年 日本補綴歯科学会副理事長
- 2022年 日本口腔インプラント学会理事長
- 2023年 日本歯科医学会常任理事
- 2025年 日本歯科医学会連合理事、国際活動委員会委員長

FDI（国際歯科連盟）の現状と課題：国際歯科界の動向と日本への影響

小川祐司（おがわ ひろし）

日本歯科医師会国際渉外委員会委員長

FDI理事

新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野教授



抄録

FDI（国際歯科連盟）は世界130か国以上の歯科医師会が加盟する歯科界最大の組織で、WHO（世界保健機関）やIADR（国際歯科研究学会）などとパートナーシップを持って、世界の口腔保健の向上・国際的な政策提言と教育支援・歯科医療の質と安全性の確保などを目的に活動している。すべての人に必須の口腔保健の恩恵が享受されることはもとより、持続可能な歯科医療を目指して環境にも優しい歯科の実践を進めており、プラスチック削減や水銀未使用の歯科材料などの啓発、また歯科医療従事者のメンタルヘルスも重要な項目となっている。2030年に向けての口腔保健行動計画では、口腔疾患予防の重要性、全身健康の一部としての口腔健康、口腔保健に従事するリソースの確保などを柱にして多角的に口腔保健を進める指針を提示しているが、パンデミックや国際紛争の影響もあってその道のりは決して容易なものではない。日本は口腔保健を先導する先進国の1つとして、FDIの活動を支援し、知見や技術を共有することが期待されている。特に高齢者に対する口腔保健施策やう蝕予防のためのフッ化物ジアンミン銀は、今後さらにその需要が増すと考えられる。日本の歯科界の諸兄にはこのようなグローバルな口腔保健の潮流をご認識いただき、口腔保健活動への協力をお願いするところである。

略歴

学歴

- 1994年 日本大学松戸歯学部卒業
- 1996年 シドニー大学大学院歯学研究科修士課程修了
- 2001年 新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了

職歴

- 2011年 新潟大学大学院医歯学総合研究科准教授
- 2014年 WHO（世界保健機関）歯科医官
- 2018年 新潟大学大学院医歯学総合研究科教授、WHO（世界保健機関）協力センター長（口腔保健分野、新潟大学）
- 2023年 新潟大学歯学部副学部長、FDI（国際歯科連盟）理事
- 2025年 日本歯科医師会国際渉外委員会委員長

IADR/JADRを通じた歯科医学の国際活動の展望

林 美加子 (はやし みかこ)

大阪大学理事・副学長



抄録

IADR (International Association for Dental Research) は歯科、口腔、顎顔面領域の研究に携わる研究者、学生、企業および行政関係者らが、世界約50カ国から1万人以上が参加する学術団体である。正式名称は、International Association for Dental, Oral and Craniofacial Researchであり、その意図は、IADRが歯科のみならず、口腔と顎顔面領域を包含する発展性のある国際学会であることを示している。IADRは30前後のResearch Group・Networkがあり、例えばう蝕、歯周病、歯科材料などの分野ごと、あるいは分野横断的に研究を牽引している。さらに、世界を5つの地域に分けた活動も活発に展開されており、日本はJADR (International Association for Dental Research) としてAsia Pacific Regionに属している。

IADRを通じたJADRの積極的な国際交流としては、まず毎年開催されるIADR General Sessionにおいて、講演、シンポジウム、口演・ポスター発表、各種の賞への応募や、レセプション等でのネットワークへの積極的な参画が期待される。さらに、IADRの様々な委員会に参画してScientific Policyの策定に関わることは、UN, WHO, FDI等の関連する国際組織に科学的知見から貢献することになり、極めて意義ある活動である。さらに、Asia/Pacific Regionalの一員として、地域のConferenceへの参画や、長年、友好をあたためてきた韓国とのJoint Projectも大切にしたい。

2029年6月にはパシフィコ横浜にて28年ぶりにIADR General SessionをJADRが主催することが決定されており、これを起爆剤としてJADRの会員増を図り、益々その活動を発展させて参りたい。

略歴

学歴

1987年 大阪大学歯学部卒業
1998年 大阪大学博士 (歯学)

職歴

2012年- 大阪大学大学院歯学研究科・教授
2020年-2023年 大阪大学歯学部附属病院長
2023年-2024年 日本歯科保存学会・理事長
2024年- 日本学術会議・連携会員(第26期)
2025年- 大阪大学理事・副学長
2025年-2026年 国際歯科医学研究会日本部会(JADR) 会長